科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 6月 7日現在

研究種目:若手研究(スタートアップ)

研究期間:2007~2008 課題番号:19890222

研究課題名(和文) 都市部多世代交流型デイプログラムにおける世代間交流を促進する

支援の開発

研究課題名(英文) Development of Supports to Promote Intergenerational Relationships

in an Intergenerational Day Program for School Age Children and

Older Adults in Urban Community

研究代表者: 糸井 和佳(ITOI WAKA)

聖路加看護大学・看護学部・助教

研究者番号: 30453658

研究成果の概要:

都市部多世代交流型デイプログラムにおける初期の世代間交流の形成過程は、子どもと高齢者が互いに知り合い、高齢者が子どもを迎え入れ、プログラムを通じて感じたことの表現や主張などを通して、会の外で出会ったときに子どもから声をかけるなど関係性の深まりが見られた。世代間交流を促進する支援は、双方の世代の参加者の交流を意図したプログラム準備や運営を行いながら、参加者主体となるような配慮やその場の一体感や安心感がもてるような配慮を行い、その中で自然な世代間交流がなされるような意図的な支援が行われていた。また、参加高齢者一人一人の体調を気遣い、その人にあったフォローをするよう、心がけていた。他の世代間交流施設の支援も含めて共通する内容として、人と人が出会う場所の準備に時間をかけ、交流の核となる世代を定めること、参加者の主体性を重んじることなどがあげられた。

交付額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合 計
2007 年度	1,330,000	0	1,330,000
2008 年度	1,350,000	405,000	1,755,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,680,000	405,000	3,085,000

研究分野:医歯薬学

科研費の分科・細目:地域・老年看護学

キーワード:世代間交流、高齢者、子ども、デイプログラム、多世代共生、都市部、支援

1.研究開始当初の背景

超高齢社会のわが国では、65歳以上の高齢者のひとり暮らしが増加し、2020年には、高齢者世帯の 34.4%に達するといわれている(平成 18 年度高齢社会白書)。ひとり暮らし高齢者の増加は、特に都市部において著しく、高齢者が外出できない原因には、健康生活習慣や独居期間の長さが指摘され(栗原、2003) ひとり暮らし高齢者の社会的孤立が危惧されている。一方、子どもを取り巻く環境を考えると、少子化や核家族化、地域社会

の変化により、高齢者など異なる世代の人と ふれあう機会が少なく、子どもたちの「生き る力」すなわち人間関係を形成し、社会性を 育む対人関係をいかに育てるかが教育にお ける課題となっている。

世代間分離による弊害を解消する手段として、世代間交流プログラムが各国で展開され、わが国では 1970 年代から老人クラブ、保育園児、小学生との間に交流が開始されている。世代間交流に関するわが国における研究では、高齢ボランティアによる子どもへの

絵本読み聞かせ介入研究"REPRINT"が挙げられ、高齢者の主観的健康感や社会的サポート・ネットワークが増進などの効果が報告されている(藤原、2006)

しかし、世代間交流がどのように形成されていくのか、その形成過程を質的に明らかにした研究は少ない。意図的な世代間交流の場における世代間交流がどのように形作られるかを明確にすることは、交流の特徴を知り、それに合わせた支援につながると考えられる。さらに、どのような要素が交流を促進するのかも十分明らかにされていないため、支援者の意見を集約する必要がある。

聖路加看護大学老年看護学では、市民主導型健康生成看護拠点を目指した市民協働型研究の経過から、「地域の子どもからお年寄りが継続して集い和む場所」のニーズを見出し、毎週1回の多世代交流型デイプログラムを創設し、老年看護学教員・看護師・地域/学生ボランティアが運営している。そこで本研究は、区民と大学の協働によって創設である世代で流型デイプログラムでもた本学多世代交流型デイプログラムで起た本学多世代交流型デイプログラムであた本学多世代で流の形成過程を質的に明らかにし、さらに、世代間交流を促進する支援について開発することを目的とした。

2.研究の目的

本学多世代交流型デイプログラム「聖路加和みの会」の参加者・スタッフ・ボランティアを対象として世代間交流の形成過程を明らかにし、さらに子どもと高齢者の世代間交流を促進する支援について探究することを目的とする。

3.研究の方法

研究は、2 つの方法を組み合わせて行った。 (1)本学多世代交流型デイプログラム 聖路加和みの会における世代間交流の形成 過程の明確化

研究対象:聖路加和みの会の参加者(小学生と高齢者)及び運営スタッフ、ボランティアのうち研究への同意が得られた者。

用語の定義

世代間交流:プログラムを通して見られる小学生と高齢者間の会話や表情、関心を示す、話しかけるなどの行動や関係性の変化。

形成過程:小学生と高齢者の間に起きた 事柄を支援者の観点から時系列にみた一 連の流れ。

調査方法

2007 年 4 月 ~ 2009 年 1 月まで、毎週 1 回研究者 2 名が、エスノグラフィーを参考に参加観察し、交流のみられた場面をフィールドノートに書き記し、保存した。

分析方法

参加観察した内容(フィールドノート)を研究者3名で読み、事象をコード化した。次に意味の類似性によって分類し、サブカテゴリを見出した。さらにサブカテゴリをテーマによりカテゴリ化した。さらにそれらのカテゴリがどの時期に出現するかを分析し、世代間交流の形成過程を明らかにした。

(2)国内外の世代間交流施設のスタッフへのインタビューやコンサルテーションによる世代間交流を促進する支援の検討

研究対象

国内外の世代間交流を支援している支援 者のうち、研究への同意が得られた者。 調査方法

国内外の世代間交流施設への視察やスタッフへのインタビューにより、世代間交流を促す支援について検討した。

(3)倫理的配慮

本学研究倫理審査委員会において、承認を 受けた後に研究を開始した。研究対象者に対 し、文書と口頭により研究を説明、協力を依 頼し、研究への自由参加の権利、及び研究協 力しなくても不利益はないこと、個人情報の 保護などを説明し、研究への同意を得た。ま た、参加観察においては研究へ同意しない者 が関与している場合は、その場面は分析から 除外した。

4. 研究成果

(1)本学多世代交流型デイプログラムにおける世代間交流の形成過程

本学多世代交流型デイプログラムは高齢者16名、小中学生8名が週1回、午後3時間、大学の教室を会場として継続的に集まり、交流する。プログラムは各回異なり、書道、キルト、地域散策、おやつ作りなどである。運営者は、老年看護学教員、専属看護スタッであり、主催者の教員1名と専属看護スタッであり、主催者の教員1名と専属看護スタッであり、それ以外はローテーションにプラムで起こる世代間交流として、12のカナラムで起こる世代間交流として、12のカナデゴリが出現した時期やカテゴリ同士の前後関係を考慮し、配置した世代間交流の形成過程を図1に示す。

プログラムを通して【高齢者と子どもとボランティアがお互いを知る】ことからはじまり、【共に参加することで刺激をうけた高齢者が素直に子どもに感じたことを表現する】 や【高齢者が子どもの居場所を作り迎え入れ

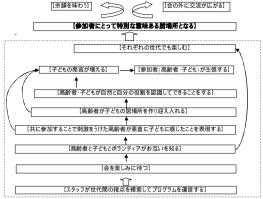


図1. 都市部多世代交流型デイプログラムで起こる世代間交流

る】が、初期段階(1ヵ月目)からすでに行 われている。そうするうちに【子どもの発言 が増える】ようになっている。2~3か月頃よ り【高齢者・子どもが自分の役割を認識して できることをする】が出現し、6か月を過ぎ ると【高齢者と子どもが主張する】などの主 体的な行動がみられている。時には、【それ ぞれの世代でも楽しむ】こともある。これら 参加者の主体的な行動は、グループ発達の観 点からは良い現象と解釈できる一方で、同じ 空間でそれぞれの世代が単世代だけで楽し むこともあった。参加者は【会を楽しみに待 つ】 会の後に【余韻を味わう】など、【参加 者にとって特別な意味ある居場所となる】様 子が見受けられた。また、【会の外に交流が 広がる】は、高齢者が会の終了後に一緒に出 かける、高齢者が新しい人を連れてくる、子 どもと高齢者が街中で出会ったときに、子ど もから高齢者の名前を呼ぶなどを示してお り、これらは、6か月目から参加者より度々 報告され、会を継続することで、確実に小学 生と高齢者の関係が作られていることが確 認された。これらの世代間交流の背景には、 【スタッフが世代間の接点を模索してプロ グラムを運営する】が継続して行われていた。

(2)世代間交流を促進する支援

本学多世代交流型デイプログラムにお ける世代間交流を促進する支援(参加観察結 果より)

スタッフの行動をフィールドノートより分析した結果、以下の9つのカテゴリが見出された。スタッフは、(1)【子どもと高齢者の双方の世代を惹きつけるプログラムを準備し、進行する】(2)【参加しやすい場・雰囲気を作る】(3)【参加者にスポットをあて、場の雰囲気を統合する】(4)【高齢者と子どもを仲介する】(5)【参加者の話を傾聴する】ほか(6)【新規来所者を皆に紹介し、会の雰囲気を守る】(7)【会のルールを伝える】(8)【参加者一人一人の体調/ペースを把握し、フォローする】(9)【スタッフも参加者と世代間交流する】などを行っていた。

都市部多世代交流型デイプログラムにお

けるスタッフの支援は、双方の世代の参加者の交流を意図したプログラム準備や運営をしながら、参加者主体となるような配慮やその場の一体感や安心感がもてるような配慮を行い、その中で自然な世代間交流がなむれるような支援を行っていた。自らも世代間交流を行い、参加者より教わることもあった。また、参加高齢者一人一人の体調を気遣い、その人にあったフォローをするよう心がけていた(表1)。

カテゴリ サブカテゴリ スタッフが双方の世代に合ったブログラムを探る スタッフが変から世代に含ったブログラムを探る どう連めるかその境でスタッフ同士相談する ブログラムを準備し、進 間き方を変えてブログラムへの集中を促す スタッフが実前で参加者を見聞して表する 関き方を変えてブログラムへの集中を促す スタッフが実前で参加者を見ずる スタッフが参加者が参加しやすいように場を設置する スタッフが参加者が参加しやすいように場を設置する スタッフが参加者が参加しやすいように場を設置する スタッフが参加者が参加しやすいように場を設置する スタッフが参加者を見ずる スタッフが参加者を見ずる スタッフが参加者を担てよる スタッフが参加者を指名し、促す スタッフが参加者を指名し、促す スタッフが参加者を指名し、促す スタッフが参加者を指名し、促す スタッフが参加者を指名し、促す スタッフが参加者の長言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者を指名し、促す スタッフが参加者の表言を指とし、促す スタッフが参加者の接手を伝える 前のする 第40 大の 表別 で	表1.都市部多世代交流	
7.9.アグドセも高齢者の双方の世代間交流を意識し工夫する方の世代を惹きつける。 とう進めるかその場でスタッフの日土相談する スタッフが次のアクティビティの用意をする 聞き方を変えてプログラムへの集中を促す スタッフが突動できかけるで課題を出し合う スタッフが突動できかけるで課題を出し合う スタッフが突動できかける では かける から できない できない できない できない できない できない できない できない	カテゴリ	
「方の世代を悪をつける とう達めるかその境でスタッフ同土相談する フタッフが次のアクティビティの用意をする 園き方を変えてプログラムへの集中を促す スタッフとボランティアが会の前後で課題を出し合う スタッフが実施で参加者を見守る 好きなように過ごすよう伝える スタッフが特別で参加者を別する スタッフが接加を参加しやすいように場である スタッフが接加を参加しやすいように場で表して スタッフが接加を参加した スタップが多加者を関する スタッフが接加を参加した にいて説明する グスト講師が中リ方を教える グスト講師が中リ万を教える グスト講師が中リ万を教える グスト講師が中リ万を教える グスト講師が中リ万を教える グスト講師が中リ万を教える グスト講師が中リ万を教える グスト講師がと明古を担合し、限度 スタッフが参加を担合と スタッフが参加を担合し、スタッフが参加を担合し、スタッフが参加を担合し、スタッフが参加を担合し、表別の表別を担合して振り返る スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を収する スタッフが参加を収する スタッフが参加を収する スタッフが参加を関を出して振り返る スタッフが参加者の好みを祭知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを祭知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを祭知して話題に取り上げる スタッフが参加者の任息分の後期を任任え、発言を促す スタッフが参加者の分別を加着し分の役割を発した。スタッフが参加者自分の役割を発した。スタッフが参加者の発言を傾聴する スタッフが多加者に自分の役割を発した。スタッフが多加者にプログラムやクストを紹介し、同意を得る スタッフが子ともの危険な行動を制止する スタッフが子ともの危険な行動を制止する スタッフが子ともの危険な行動を制止する スタッフが子ともの危険な行動を制止する スタッフが子ともの危険な行動を制止する スタッフが子ともの危険な行動を制止する スタッフがデンティアが自然に交わる 新しいスタッフに乗び性 八高齢者 子とも)が教える スタッフやケスト講師が子ともを表める スタッフやゲスト講師が子ともを表める スタッフやゲスト講師が子ともを表める スタッフやゲスト講師が子ともを表める スタッフをグスト講師が子ともを表める スタッフやゲスト講師が子をきをある	(1)子どもと高齢者の双方の世代を惹きつける	スタッフが双方の世代に合ったプログラムを探る
「方の世代を暮るつける」 「フタッフが次のアクティビティの用意をする 園き方を変えてプログラムへの集中を促す スタッフが実施で参加者を見ずる 別をなるという。 「2)参加しやすい場・雰囲気を作る 別をなるという。 「2)参加しやすい場・雰囲気を作る 「2)参加しやすい場・雰囲気を作る 「2)参加しやすい場・雰囲気を作る 「2)参加しやすい場・雰囲気を作る 「2)参加しやすい場・雰囲気を作る 「2)参加しやすい場・雰囲気を作る 「2)参加を見ずる 「2)参加を見ずる 「2)参加を見ずる 「2)参加を見ずる 「2)参加を関する 「2)参加を関する 「2)参加を関する 「2)が変加者が参加しやすいように場を設置する スタッフがが見聞るを指名し、促す スタッフが参加を指名し、促す スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の投きを指名し、促す スタッフが参加者の接手を伝える 前の雰囲気を統合する 「2)が参加者の好みを察知して振聞に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して振聞に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して振聞に取り上げる スタッフが参加者の行みを察知して振聞に取り上げる スタッフが参加者の行みを察知して振聞に取り上げる スタッフが参加者自分の役割を発して、発言を促す スタッフが参加者自分の役割を検を伝え、発言を促す スタッフが参加者の発音を傾聴する スタッフが参加者の発音を傾聴する スタッフが参加者の発音を傾聴する スタッフが多か配き自分の役割を発して、 スタッフが子ともの危険な行動を利止する スタッフが子ともの危険な行動を利止する スタッフが子ともの危険な行動を利止する スタッフが言かき自変で収る スタッフが言かき自変で収る スタッフが言かきる スタッフが言かきる スタッフが言かさる スタッフが言かきる エスタッフが表しています。 エスタッフが言かきる スタッフがランティアが自然に交わる 新しいスタッフに異なせ代、高齢者・子とも)が教える スタッフやケスト講師が子ともを表める スタッフやケスト講師が高齢者を表る		スタッフが世代間交流を意識し工夫する
関き方を変えてプログラムへの集中を促す スタッフとボランティアが会の前後で課題を出し合う スタッフとボランティアが会のの前後で課題を出し合う スタッフが実顔で参加者を見守る 好きなように過ごすよう伝える スタッフが参加者が見つれていまいます。 コタッフが参加者が参加しやすいように場を設営する スタッフがが多加者が参加しやすいように場を設営する スタッフがが多加者の発音を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発音を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発音を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発音を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発音を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発音を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発音を担名し、促す スタッフが参加者の発音を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発音を担名し、促す スタッフが参加者の発音を担名し、元の スタッフが参加者のがみを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の行みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の自分の後期を行る、発言を促す スタッフが参加者の自分の後期を行る、発言を促す スタッフが参加者の自分の後期を行る スタッフが参加者の自分の後期を行る スタッフが参加者の自分の後期を行る スタッフが参加者のよりの表情で表現である スタッフががとも同た例を報告を発言に聞き入る スタッフが子とも同た例を対する スタッフが子とも同た例を対する スタッフが子とも同た例を対する スタッフが子とも同た例を対する スタッフが子とものたりなで対象を利としています。 スタッフが子とものたりなで対象を利としています。 スタッフが子とものたりなで対象を利としています。 スタッフがコンティアが自然に交わる エスタッフをデントであります。 スタッフがコンティアが自然に交わる エスタッフやブント講師が子ともを表める スタッフやブント講師が不らを表すを表		
関き方を変えてプログラムへの集中を促す		スタッフが次のアクティビティの用意をする
スタッフが笑面で参加者を見守る アきなように急ごすよう伝える スタッフが特子の配置・保順を考慮する スタッフが特子の配置・保順を考慮する スタッフが特子の配置・保順を書慮する スタッフが対応子・機能を伝える スタッフがブログラムについて説明する ゲスト講師がかり方を教える ゲスト講師がかり方を教える オスタップが参加者の発言を提唱し、再度旨に伝える スタッフが参加者の発言を提唱し、再度旨に伝える スタッフが参加者の発言を提唱し、再度旨に伝える スタップが参加者の発言を指名し、促す スタップが参加者の表言を指名し、促す スタップが参加者の表言を指名し、仮す スタップが参加者の表言を指名し、仮す スタップが参加者の段さを引き出す スタップが参加者の段さを引き出す スタップが参加を収す スタップが参加者に日がりを発知して困難を阻して振り返る スタップが参加者の好みを察知して困難を取り上げる スタップが多力者に自分の役割を味を伝え、発言を促す スタップが参加者に自分の役割を採むして、発音を促す スタップが参加者に自分の役割を操作する スタップが参加者に自分の役割を積付する スタップが参加者に対しい人を皆に紹介し、会の雰囲気を スタップが参加者にプログラムや分えと紹介し、同意を得る スタップが子ともの危険な行動を削止する スタップが子ともを言葉で収る スタップが子ともを言葉で収る スタップが子ともを言葉で収る スタップが子とも言葉で収る スタップが子とも言葉で収る スタップが子とも言葉で収る スタップが子とも言葉で収る スタップが子とも言葉で収る スタップが子とも言葉で収る スタップが高齢者の体調を気遣うか出時の高齢者の安全を気遣う 人の人につきそう スタップやアンディアが自然に交わる スタップやアンディアが自然に交わる スタップやアンディアア・インドを要める スタップやアンディア・インドを要める スタップやアンド講師が子どもを要める スタップやアンドである スタップやアンドは同かがる音楽を要める	行する	
好きなように過ごすよう伝える スタッフが4子の配置・麻順を考慮する スタッフが残りの配置・麻順を考慮する スタッフが残り、情報を伝える スタッフが近り方とかれていいていまます。 スタッフが大力について記明する ゲスト講師がやり方を教える ゲスト講師がやり方を教える ゲスト講師がでりろを書き復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加を発言する スタッフが参加を発言する スタッフが参加を発言する スタッフが参加を発言する スタッフが参加を発言を指名し、促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加をになる 高的のプログラムの意題を出して振り返る スタッフが参加を促す スタッフが参加を促する スタッフが参加を促する スタッフが参加を促する スタッフが参加を促する スタッフが参加を促する スタッフが参加を促する スタッフが参加を促する スタッフが参加を促する スタッフが参加をして振り返る スタッフが参加をして振り返る スタッフが参加を自分の後期を行る。 スタッフが参加を自分の後期を行る。 スタッフが参加を自分の後期を発言に関き入る スタッフがデントに分別を発言を関連する スタッフがデントを記録介する スタッフがデントを記録介する スタッフがデントを言葉で叱る スタッフが子ともの危険な行動を刺止する スタッフが子ともの危険な行動を刺止する スタッフが子ともの危険な行動を刺止する スタッフが子ともの危険な行動を刺止する スタッフが子ともの危険な行動を刺止する スタッフが子ともの危険な行動を刺止する スタッフが子ともの危険な行動を刺上する スタッフが子ともの危険な行動を刺上する スタッフが言動者の体調を気遣う 人人の人につきそう スタッフや音を表する スタッフや子とを表する スタッフやガスト講師が子ともを表める スタッフやガスト講師が不会を表をある		スタッフとボランティアが会の前後で課題を出し合う
2.7 タッフが4子の配置・廃順を考慮する スタッフが対力でが参加とサないように堪を設営する スタッフがバルで構築を伝える スタッフがバルで表現を伝える スタッフがバルで表現を伝える スタッフがブログラムについて説明する グスト講師がり万を教える イスト講師がり万を教える イスト講師がり万を教える イスト講師がり万を教える イスト講師がり万を教える イスト講師がり万を教える イスト講師がり万を教える イスト講師がり万を教える イス・関節を指し、任す スタッフが参加者の良きを引き出す スタッフが参加を使す スタッフが参加を使す スタッフが参加を使す スタッフが歩のが見る様を伝える 前回のブログラムの話題を出して振り返る スタッフが歩の上では一て振り返る スタッフが歩の上では一て振り返る スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の子も察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の子も察知していての希望を奏る スタッフが参加者の子も察知していての希望を奏る スタッフが参加者の子も察知していての希望を奏る スタッフが参加者の子も察知していての希望を奏る スタッフが参加者の子も察知していての希望を表る スタッフが参加者では一大の大き紹介し、同意を得る スタッフがアストが軸の中に入れるように気にかける スタッフがデントが自然では声を気遣う スタッフが子ともを言葉で叱る スタッフが子ともを言葉で叱る スタッフが子ともを言葉で叱る スタッフが子ともを言葉でいる エスタッフが高き者の体調を気遣うか出時の高齢者の安全を気遣う 一人の人につきそう スタッフを分とする 新しいスタッフに異していていていていていていていていていていていていていていていていていていてい		スタッフが笑顔で参加者を見守る
2)参加しやすい場・雰		好きなように過ごすよう伝える
田気を作る スタッフが決況・情報を伝える スタッフがフログラムについて説明する ゲスト講師が労用気を終合する スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが多か者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の民選を出して振り返る スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタッフが参加者の分別を預ける スタッフが参加者の過ぎの表に表し、発言を促す スタッフが参加者の分別を預ける スタッフが参加者からの多様な相談や発言に関き入る スタッフが参加者からの多様な相談や発言に関き入る スタッフが参加者からの多様な相談や発言に関き入る スタッフが多かが多い人を皆に紹介する スタッフが多かれるからで表していた。 スタッフが子ともの危険な行動を利止する スタッフが子ともに会てのルールを伝える スタッフが子ともの危険な行動を利止する スタッフが子ともの危険な行動を利止する スタッフが子ともの意なが関を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフがあります。 エスタッフがあります。 スタッフが高齢者の体調を気遣う・スタッフやブスト講師が子ともを要める スタッフやブスト講師が不らとも変める スタッフやブスト講師が不らとも変める スタッフやブスト講師が不らとも変める		
スタッフがプログラムについて説明する	(2)参加しやすい場・雰	スタッフが参加者が参加しやすいように場を設営する
ゲスト議師が中り方を教える ゲスト講師が雰囲気を統合する スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発言を担名し、促す スタッフが参加を良きを引き出す スタッフが参加をします。 スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加を促す スタッフが参加をして振り返る スタッフが参加者の好みを察知して振り返る スタッフが参加者の好みを察知して振り返る スタッフが参加者の好みを察知して振り返る スタッフが学の上に分しいての希望を募る スタッフやヴスト調師が文化の意味を伝え、発言を促す スタッフや学生ボランティアが子ともと高齢者を仲介する スタッフが参加者の自分の登録を積しる スタッフが参加者の発育しる スタッフが参加者の発育しる スタッフが参加者の発育しる スタッフが参加者の発育しる スタッフが参加者の発育しる スタッフが参加者の発育しる スタッフがが大きたいた。 スタッフが子ともの危険な行動を利止する スタッフが子ともの危険な行動を利止する スタッフが子ともの危険な行動を利止する スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフを多加者と 世代間交流する スタッフを多加者と 世代間交流する スタッフをライビディに参加する スタッフをフィンドを開かる スタッフをフィンドを表する スタッフをフィンドを表する	囲気を作る	スタッフが状況・情報を伝える
ゲスト講師が雰囲気を終合する スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが多か相名の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の民主を引き出す スタッフが参加者の民主を引き出して振り返る スタッフが参加者の好みを察知して抵制に取り上げる スタッフが先のプログラムに記載を出して振り返る スタッフが参加者の好みを察知して抵制に取り上げる スタッフが先のプログラムについての希望を募る スタッフが失のプログラムについての希望を募る スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者の表言を傾聴する スタッフが参加者の表言を傾聴する スタッフが参加者の表言を傾聴する スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に対し人を皆に紹介する スタッフが参加者にプログラムセヴストを紹介し、同意を得る スタッフが多加者にプログラムセヴストを紹介し、同意を得る スタッフが子とも言葉で叱る スタッフが子とも言葉で叱る スタッフが子とも言葉で叱る スタッフが子とも言葉で叱る スタッフが高と者の体調を気遣う 人の人につきそう スタッフを参加者と 世代間交流する スタッフをグトは関係が子どもを襲める スタッフをグトは関係が子どもを要める スタッフやグトは関係が子どもを要める スタッフやグトは関係が子どもを要める		スタッフがプログラムについて説明する
ゲスト講師が雰囲気を終合する スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが多か相名の発言を復唱し、再度皆に伝える スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の良さを引き出す スタッフが参加者の民主を引き出す スタッフが参加者の民主を引き出して振り返る スタッフが参加者の好みを察知して抵制に取り上げる スタッフが先のプログラムに記載を出して振り返る スタッフが参加者の好みを察知して抵制に取り上げる スタッフが先のプログラムについての希望を募る スタッフが失のプログラムについての希望を募る スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者の表言を傾聴する スタッフが参加者の表言を傾聴する スタッフが参加者の表言を傾聴する スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者に対し人を皆に紹介する スタッフが参加者にプログラムセヴストを紹介し、同意を得る スタッフが多加者にプログラムセヴストを紹介し、同意を得る スタッフが子とも言葉で叱る スタッフが子とも言葉で叱る スタッフが子とも言葉で叱る スタッフが子とも言葉で叱る スタッフが高と者の体調を気遣う 人の人につきそう スタッフを参加者と 世代間交流する スタッフをグトは関係が子どもを襲める スタッフをグトは関係が子どもを要める スタッフやグトは関係が子どもを要める スタッフやグトは関係が子どもを要める		ゲスト講師がやり方を教える
スタップが子ともや高齢者を招名し、促す スタップが参加者の良さを引き出す 、		
3)参加者にスポットを 当て、場の雰囲気を終 合する 日本の雰囲気を終 自する 日本の雰囲気を終 は、場の雰囲気を終 は、場の雰囲気を終 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、		スタッフが参加者の発言を復唱し、再度皆に伝える
(3)参加者にスポットを 当合、場の雰囲気を統		スタッフが子どもや高齢者を指名し、促す
当て、場の雰囲気を統 前回のプログラムの陰難を出して振り返る スタップが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタップが参加者の好みを察知して話題に取り上げる スタップが失のプログラムについての希望を募る スタップが失いの意味を伝え、発言を促す スタップが失いの意味を伝え、発言を促す スタップが多か者に自分の役割を預ける スタップが参加者に自分の役割を預ける スタップが参加者の書き権印験や発言に聞き入る スタップが参加者の多言を傾聴する スタップが参加者の発言を傾聴する スタップが多加者の発言を傾いである。 スタップが多加者の発言をは紹及や発言に関うなる スタップが多加者の発言をは紹及から、 スタップが多加者の発言をは経り発言に関うする スタップが多加者にプログラムやヴストを紹介し、同意を得る スタップが多加者にプログラムやヴストを紹介し、同意を得る スタップが多かまにプログラムやヴストを紹介し、同意を得る スタップが子ともに会でのルールを伝える スタップが子ともを変します。 スタップが子ともを変します。 スタップが高齢者の体調を気遣う 本調ペースを把握し、フォローする スタップが高齢者の体調を気遣うか出時の高齢者の安全を気遣う 一人の人につきそう スタップをデンティアが自然に交わる 新しいスタップに異世代、高齢者・子どもが教える スタップもデンティアが自然に交わる 新しいスタップに異世代、高齢者・子どもが教える スタップもデンティアが自然に交わる スタップもデンティアが自然に交わる スタップもデンティアが自然に交わる スタップもデンティアが自然に交わる スタップもデンティアが自然に交わる スタップもデンティアが自然に交わる スタップもデンティアが自然に交わる スタップもデンティアが自然に交わる スタップもデンティアが自然を変しる スタップもデンティアが自然を変しる スタップもデンティアが自然を変しる		スタッフが参加者の良さを引き出す
当て、場の雰囲気を統 合する	(3)参加者にスポットを	
高する	当て、場の雰囲気を統	スタッフが会以外の参加者の様子を伝える
スタップが参加者の好みを察知して活題に取り上げる スタッフが失のプログラムについての希望を募る スタッフやヴスト調師が文化の意味を伝え、発言を促す (4)高齢者と子どもを仲 介する (5)参加者の話を傾聴 (6)新規来所者を皆に 紹介し、会の雰囲気を (7)会のルールを伝える (7)会のルールを伝える (7)会のルールを伝える (7)会のルールを伝える (8)参加者・人一人の 本調パースを把握し、 フォッフが高数もでは変していました。 (8)参加者・人一人の 本調パースを把握し、 フォッフが高数もでいました。 (8)参加者・人一人の 本調パースを把握し、 フォッフが高齢者の体調を気遣う 人の少フが高齢者の体調を気遣う 人のツラインが高齢者の体調を気遣う 人の人につきそう スタッフやダントが対したの高齢者の安全を気遣う 一人の人につきそう スタッフやダント調がした。 エスタップを表して、 スタッフがデンチでは、 スタッフがランティアが自然に交わる 新しいにスタッフに異せ代、高齢者・子ども)が教える スタッフをデントが開かる スタップをデントが高いました。 エスタップを表して、 スタップを表して、 スタップをデントに、 スタップをデント	合する	
スタッフが先のプログラムについての希望を募る スタッフが失力、講師が文化の意味を伝え、発言を促す (4) 高齢者と子どもを仲 介する スタッフが学がから、 スタッフが学がある。 スタッフが参加者に自分の役割を預ける スタッフが参加者の語を傾聴する スタッフが参加者の多言を傾聴する スタッフが参加者の発言を傾聴する スタッフが参加者の発言を傾聴する スタッフが参加者の発言を傾聴する スタッフが参加者にプログラムやヴストを紹介し、同意を得る スタッフが参加者にプログラムやヴストを紹介し、同意を得る スタッフが参加者にプログラムやヴストを紹介し、同意を得る スタッフが子どもに会でのルールを伝える スタッフが子どもに会でのルールを伝える スタッフが子どもを意葉で叱る スタッフが子ともを変遣う 本調ペースを把握し、フォローする スタッフが高齢者の体調を気遣う 大切につきそう スタッフを参加者と 世代間交流する スタッフをデンティアが自然に交わる 新いにスタッフに異世代、高齢者・子ども)が教える スタッフをデンティアが自然に交わる エスタッフをデンティアが自然に交わる スタッフをデンティアが自然に交わる スタッフをデンティアが自然に交わる スタッフをデンティアが自然に交わる スタッフをデンティアが自然に交わる スタッフをデンティアが自然を変める スタッフをデンティに夢加する スタッフをデント、講師が子どもを褒める スタッフをデント、講師が子どもを褒める スタッフをデント、講師が子ともを褒める		
スタッフやグスト講師が文化の意味を伝え、発言を促す		
		スタッフやゲスト講師が文化の意味を伝え、発言を促す
(5)参加者の話を傾聴 スタッフが参加者からの多様な相談や発言に聞き入る スタッフが参加者のからの多様な相談や発言に聞き入る スタッフが参加者の発言を開きる スタッフが参加者の発言を開きる スタッフがダントが輸の中に入れるように気にかける スタッフがダントが輸の中に入れるように気にかける スタッフが子ともに会てのルールを伝える スタッフが子ともに会てのルールを伝える スタッフが子ともに会てのルールを伝える スタッフが子ともに会てのルールを伝える スタッフが子ともの院妹な行動を制止する スタッフが子とも一意で調査 スタッフが子とものに関を引動を制止する スタッフが言動者の体調を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフを表します。 スタッフやボランティアが自然に交わる 新いいスタッフに乗び代(高齢者・アとも)が教える スタッフやガント講師が子ともを褒める スタッフやグスト講師が不会を表する スタッフやグスト講師が不会を表する	(4)高齢者と子どもを仲	スタッフや学生ポランティアが子どもと高齢者を仲介する
する スタッフが参加者の発言を傾聴する スタッフが参加者の発言を傾聴する スタッフが参加者の発言を傾聴する スタッフが新加し人を皆に紹介する スタッフがが大きいた輪の中に入れるように気にかける スタッフが学上が一般に入れるように気にかける スタッフが学上もに会でのルールを伝える スタッフが子ともに会でのルールを伝える スタッフが子ともを育業で叱る スタッフが子ともを言葉で叱る スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う スタッフをおいた。 スタッフをおいた。 スタッフをおいた。 スタッフをおいた。 スタッフをおいた。 スタッフをおいた。 スタッフをおいた。 スタッフをおいた。 スタッフをから、 スタッフをから、 スタッフをがよいに、 スタッフをから、 スタッフをから、 スタッフをから、 スタッフをから、 スタッフをから、 スタッフをがよいに、 スタッフをから、 スタッフをがよいに、 スタッフをから、 スタッフをがよいに、 スタッフをがよいに、 スタッフをから、 スタッフをがよいに、 スタッフをは、 スタッスをは、	介する	スタッフが参加者に自分の役割を預ける
(6) 新規来所者を皆に スタッフが新しい人を皆に紹介する スタッフが大し、 会の雰囲気を オラマンアゲストが軸の中に入れるように気にかける スタッフが参加者にプログラムやゲストを紹介し、同意を得る スタッフが参加者にプログラムやゲストを紹介し、同意を得る スタッフが子どもの危険な行動を制止する スタッフが子どもを直葉で収る スタッフが子ともを直葉で収る スタッフが子ともを直葉で収る スタッフが子ともを直葉で収る スタッフが高齢者の体調を気遣う 人の人につきそう スタッフやボランティアが自然に交わる 新しに又タッフに異性代(高齢者・子ども)が教える スタッフを分入に関節が子どもを要める スタッフやゲスト講師が子どもを要める スタッフやゲスト講師が子どもを要める スタッフやゲスト講師が子どもを要める スタッフやゲスト講師が子どもを要める	(5)参加者の話を傾聴	スタッフが参加者からの多様な相談や発言に聞き入る
紹介し、会の雰囲気を オタッフがグストが輪の中に入れるように気にかける スタッフが対子ともに会でのルールを伝える スタッフが子どもに会でのルールを伝える スタッフが子どもの危険な行動を制止する スタッフが子どもを自業で叱る 8)参加者一人一人の 本調パースを把握し、 フォローする フィフが高齢者の体調を気遣う外出時の高齢者の安全を気遣う 一人の人につきて、 スタップやボランティアが自然に交わる 新いルスタッフに異世代(高齢者・子ども)が教える スタッフやガスト講師が子ともを要める スタッフやガスト講師が不会をを要める スタッフやガスト講師が高齢者を要める	する	スタッフが参加者の発言を傾聴する
フタッフが参加者にプログラムやゲストを紹介し、同意を得る スタッフが子ともに会でのルールを伝える スタッフが子ともに会でのルールを伝える スタッフが子ともを高葉で叱る スタッフが子どもを高葉で叱る スタッフが高齢者の体調を気遣う 木明ペースを把握し、フォローする イルスを記載した。 フィアーカーを、カース・アンが高齢者の体調を気遣う外出時の高齢者の安全を気遣う一人の人につきそう。 スタッフやボランティアが自然に交わる 新しいスタッフに異世代、高齢者・子ども、が教える スタッフも学がよる スタッフもゲストに帯が子どもを褒める スタッフやゲストに講師が子どもを褒める スタッフやゲスト講師が子どもを褒める	(6)新規来所者を皆に	スタッフが新しい人を皆に紹介する
スタッフが子どもに会てのルールを伝える スタッフが子どもの危険な行動を制止する スタッフが子どもの危険な行動を制止する スタッフが子ともの危険な行動を制止する スタッフが子ともを盲葉で叱る 8.参加者一人一人の スタッフが高齢者の体調を気遣う ー人の人につきそう スタッフやボランティアが自然に交わる 新しいスタッフに異世代(高齢者・子ども)が教える スタッフも参加者と 世代間交流する スタッフやブスト講師が子どもを褒める スタッフやブスト講師が高齢者を変める スタッフやブスト講師が高齢者を変める	紹介し、会の雰囲気を	スタッフがゲストが輪の中に入れるように気にかける
(7)会のルールを伝える スタッフが子どもの危険な行動を制止する スタッフが子どもを言葉で叱る スタッフが写き者の体調を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う外出時の高齢者の安全を気遣う スタッフが高齢者の体調を気遣う外出時の高齢者の安全を気遣う 一人の人につきそう スタッフやボランティアが自然に交わる 新しいスタッフに異世代、高齢者・子ども)が教える スタッフもダンティアティピティに参加する スタッフもゲスト講師が子どもを褒める スタッフやゲスト講師が子どもを褒める スタッフやゲスト講師が子どもを褒める	守る	スタッフが参加者にプログラムやゲストを紹介し、同意を得る
スタッフが子どもを言葉で叱る スタッフが高齢者の体調を気遣う 本調パースを把握し、フォローする		スタッフが子どもに会でのルールを伝える
スタッフが子どもを言葉で叱る スタッフが高齢者の体調を気遣う 本調パースを把握し、フォローする	(7) 会のルールを伝える	スタッフが子どもの危険な行動を制止する
本調/ベースを把握し、 フォローする スタッフが高齢者の体調を気遣う外出時の高齢者の安全を気遣う 一人の人につきそう		
フォローする	(8)参加者一人一人の	スタッフが高齢者の体調を気遣う
フォローする 一人の人につきそう スタッフやボランティアが自然に交わる 新しいスタッフに異世代、高齢者・子ども」が教える スタッフも参加者と 世代間交流する スタッフもゲスト 講師が子どもを褒める スタッフやゲスト 講師が高齢者を変める	体調/ペースを把握し、	スタッフが高齢者の体調を気遣う外出時の高齢者の安全を気遣う
新しいスタッフに異世代(高齢者・子ども)が教える スタッフも参加者と 世代問交流する スタッフやゲスト講師が子どもを褒める スタッフやゲスト講師が高齢者を褒める	フォローする	
新しいスタッフに異世代(高齢者・子ども)が教える スタッフも参加者と 世代問交流する スタッフやゲスト講師が子どもを褒める スタッフやゲスト講師が高齢者を褒める	(9)スタッフも参加者と 世代間交流する	スタッフやボランティアが自然に交わる
世代間交流する スタッフやゲスト講師が子どもを褒める スタッフやゲスト講師が高齢者を褒める		新しいスタッフに異世代(高齢者・子ども)が教える
スタッフやゲスト講師が高齢者を褒める		スタッフもアクティビティに参加する
		スタッフやゲスト講師が子どもを褒める
		スタッフやゲスト講師が高齢者を褒める

シニア読み聞かせボランティアコーディ ネーターの支援(インタビュー調査結果)

他世代間交流施設として、東京都老人総合研究所が行う REPRINTS のボランティアコーディネーターの一人にインタビューを行った。インタビュー逐語録より、支援内容を抽出した(表 2)。

表2. REPRINTSボランティアコーディネーターが考える支援
生まれ育った地域での自らの人脈・立場・実績をボランティア作りに活かす
行いたい人をみつけてきて紹介する
その人にあったボランティア活動の種類
ボランティア活動におけるベース作り(環境・規約)を学校と一緒に行う(学校との折衝)
シニアボランティアのしどころを作り達成感をもつことを支える
大人は子どものお手本という自覚を促す
ボランティア活動(運営・個々の達成感)を見守る
子どももシニアも1人の人間として接する
子どもに一つでも多く経験や生の体験をさせたい
体を張って子どもと本気で付き合い、コミュニケーションを教える
きっかけは大人がつくる
自分の関わった子どもたちが成長するのを見守る
地域の人達全員で子どもを育てる

この世代間交流プログラムの概要は、60歳以上のシニアが、ボランティアとして幼稚園、保育園、小学校、中学校などで子どもたちに絵本の読み聞かせを行うプログラムである。ボランティアコーディネーターは、地域で

の自らの人脈、立場、実績を生かしてボラン ティアチームをつくり、高齢者がボランティ アしやすいよう、学校とともにボランティア 活動における取り決めを行っていた。またシ ニアボランティアのしどころを作り、達成感 を支えること、大人は子どもの手本という自 覚を促すことを行っていた。子どもに一つで も多くの経験をさせ、社会生活において自信 をもって自分の意見を言える子になってほ しいという思いから、子どもと本気で接し、 子どもの成長を見守ったり、地域の人たち全 員で子どもを育てられるよう、環境に働きか けたりしていた。

多世代共生型施設の中学校教員の支援(イ ンタビュー調査結果)

都市部にある中学校、保育園、特別養護老 人ホームの複合施設の中学校教員 1 名にイン タビューを行った。支援内容を抽出したもの を表3に示す。

表3. 多世代共生型施設の中学校教師の支援 特別養護老人ホームへの訪問を中学校の生徒会に持ちかける 活動の核となる子どもを見つける 中学生の主体的な訪問施設との段取りをサポートする 人のためにして感謝されることで思いやりや温かみを知ってほしい PTAを巻き込む 共生型施設でもお互いの時間帯を合わせることに苦慮する

ここでは、複合施設の理念である多世代共 生に基づき、中学生による特別養護老人ホー ムへの友愛訪問や演奏会、福祉体験などが行 われている。

中学校教員は、世代間交流を中学生による ボランティア活動として位置づけ、人のため にする活動を通し、感謝されることで思いや りや温かみを知ってほしいと願い、教育目標 としていた。特別養護老人ホームへの訪問を 生徒会に呼びかけ、活動の核となる子どもを 見つけたり、子どもたちの主体性を伸ばすた め、相手施設との段取りをサポートしたりし ていた。また、PTAへの呼びかけを通し、 親も巻き込んでの多世代共生型地域づくり を意識していた。

寺子屋回想法の実践者の支援(インタビュ -調査結果)

「寺子屋回想法」は、お寺のお坊さんの「子 どもたちに寺子屋を」との思いと「高齢者の 生きた体験や言葉を子どもたちに」という臨 床心理士の思いが重なって開催された。その 創設者1名と実践者1名(計2名)の支援に ついて表4に示す。

ここでは、お寺という古来、人と人が自然 に集い交流する場で、10代から90歳代の方々 に来てもらい、回想法を取り入れた世代間交 流が行われている。

臨床心理士は、人と人が出会う場、来てよ かったと思える会を、心をこめて時間をかけ 表4. 寺子屋回想法実践者(臨床心理士)の支援

高齢者のあまりに素晴らしい体験や言葉を若い世代の人にも伝え たい

お寺のお坊様や茶道の専門家、地域の人などとの出会いの中で思いが共通する人と仲間になり、準備する

丹精込めて時間をかけて人と人が出会う場をつくる

参加者がきてよかったと思える会を心をこめてつくるということを中 心にする

会の枠組みは提供し、そこで思わず話せる場を丁寧につくる

高齢者の話に耳を傾けることで高齢者の心を支えながら、自らも豊 かな経験や見方などを受け取る

若者には会の趣旨や意図は繰り返し伝え、あとは、彼らの自発性や 自主性を大切にする

自分たちのイメージに学生たちをあわせるのではなく、学生たちの 持てる力を発揮してほしいという思いで待つ

高齢者と若者の間にいる自分たちもすごく変化する

上の世代と下の世代をつないだり、場や器を提供することで、自分 たちが受けた経験や知識を還元し、循環させていけるといい

その場でその方なりの一番居心地のいい場をつくっていくことが基 本なので無理強いしない

参加者には目に見える効果などを求めず、ここにきて楽しんでもらう ことを大事にする

て準備している。その中で様々な知識を持つ 異なる分野の方との出会いを大切にし、その プロセスを意味あるものとしている。会の枠 組みは提供し、そこで参加者が思わず話せる 場を丁寧に作っている。枠組みの一つとして、 高齢者の話を傾聴する若者のリーダー育成 を行っているが、その際、会の趣旨や意図は 説明した上で、若者が高齢者に聞きたいこと などは自発性や自主性を大切にしている。

また、自分たちは上の世代と下の世代をつ なぐ中間に位置し、自分たちも得たものを循 環させていけるといいと考えていた。

親子キャンプ<大学生が活動をサポート > の主催している大学教員の支援(インタビ ュー調査結果)

ここでは、健康教育のプログラムとして、 楽しい自然体験をとおし、いのちや自然を感 じる親子キャンプを開催している。地域の小 学生を含む親子(祖父母と孫も含む)を対象 に、大自然に囲まれた場所でのキャンプを行 い、その活動を大学生とともにサポートして いる。その会の創設者の大学教員へのインタ ビューから、支援内容を抽出した(表5)。

表5.親子キャンプ(大学生が活動をサポート)を主催する大学教員の支援 複数の親子と大学生が同じ活動をするなかで、横のつながりを支援する

自然の中で楽しい体験をすることで、いのち、自然、自分を感じ、子どもたちに生きる 力を育む機会を提供する

基本的に大学生が自分で考えたことを尊重し、彼らの思いで責任もってやってもらう 何かハプニングが起きたときは自分が責任を引き受ける

野外活動を通して、普段とは違う親の姿を見て、子どもが尊敬する場面がある

キャンブを通して、親世代も自分以外の子どもにも目が行き、皆で子どもを見守り育 てる空気が出来る それぞれの世代での出し物を企画する サポーティブすぎない健全な関わりでよいと学生に伝える キャンプを通して家族が自立して来なくなることは良いこと

新規の方々にも大歓迎という思いを伝え

子どもたちにもルールをみんなで決めさせてこれは守ろうというところから始めるとし

ここでの世代間交流は、主に小学生と大学 生、大学生と自分の家族以外の親、親子以外 の大人と子どもが考えられる。大学教員は、

楽しい活動をするという趣旨に賛同する大学生に、活動全般において主体性を持たせていた。プログラムの中で大切にしていることは、自然の中での楽しく過ごすことを基本に、オープンな雰囲気や体験学習、自然体験、コミュニケーション(親子、親以外の大人と子ども)ふり返り、分かち合いなどであった。親子に対しては、むしろサポーティブ過ぎない関わりがよいと考えていた。

日本世代間交流協会

(http://www.jiua.org/)の世代間交流ワークショップ(2009年3月15日)参加者が考える支援

世代間交流協会主催の世代間交流ワークショップにて意見交換を行った。参加者6名による意見を、KJ法により参加者の話し合いで分類した(表6)、参加者は、医師が1名、大学教授が1名、老年学研究員が1名、公立小学校教諭が1名、福祉心理系大学教員が1名、看護大学教員が1名である。

支援者たちは、子どもに焦点をあて、育ちのプロセスをありのままに受けいれるようを交流支援、高齢者の健康に配慮するなども行っており、意図的に世代間交流プログラムを提供する必要性を感じていた。大人もそとも無理のない世代間交流プログラムの継続、世代間交流活動を日常的に行えるよ地域によったの開発、多様な価値観を味わい、地域に民ともに子どもを育てる意識を持つ必要性、世代間交流の効果のエビデンスを出し、世間に PR する必要性などを感じていることが明らかとなった。

表6.世代間交流の支援者が	大切にしている支援
カテゴリ	データ
	子どもの育ちのプロセスをありのまま受け入れるような交流を支援する
	グループではそれぞれの個性を表現できるように、コーディネーターはきちん と観察し、一人一人にスポットを当てる
	高齢者だけの満足に終わらないように支援する
子どもにスポットを当てる	支援者は、最初に子ども側のニーズに合うプログラムや方法を企画、考案する よう心がける
	子どもが大人の中にいても自分の意見を言えるようにする
	子どもが限定された時間と空間のプログラム作りをする (コーディネーターが 子どもに司会だけでも任せる)
自他がお互いを理解する	(初めは)緊張や何を言って良いのか分からないことを感じつつ、自らがコ ミュニケーションの深度を高める
	支援者も自分自身が世代間交流を楽しむ
	1人ひとりの人生史をみんながそれぞれ感じてみる
子どもも大人もコーディ ネーターも多様な価値観を	世代間交流の対象をより多世代化する
味わって欲しい	自分の価値観と人の価値観は相違することをあじわう
	老いのプロセスに子どもたちが触れることができる交流を支援する
	子どもと高齢者の関係作りをサポートする
	・なじみの関係ができるような継続的な関係作りを支援する
	・あせらずに関係作りができるように長い目をもつ
	・結果がでないと思っていてもいつかはなんらかの関係性があると思ってグループを継続する
大人も子どももコーディ ネーターも無理のないプロ	高齢者と子どもが関わっているとき、スタッフ(コーディネーター、マネージャー)はそれを見守る
グラムを継続する	高齢者が無理なく参加することをサポートする
	支援者は継続に向けて高齢者のニーズや心身能力(健康)を考慮したブログラ ムにbrush upする
	私は時に社会的、時代的通念にたち客観的に活動を概観するようにしている (安全、時間的制約など)
	意図的なものを自然体にする(環境づくりの大変さ)
	プログラムに依存しない交流のあり方を考える
世代間交流活動を日常に融合する	場を提供しても交流が起こるとは限らないのでスタッフ(コーディネーター・ マネージャー)はプログラムを用意する
	双方にとってネタがつきないが、ある程度系統だった、かつテーマに一貫性の あるプログラムを選ぶようにしている
	子どもと高齢者が一緒に目的のある活動を行うようにする (それぞれが必ず振り返りをする)
	コーディネーターが毎回必ず参加者が一人1回話すような決まりきったワンパ ターンの短いブログラムを設定する
エビデンスのある評価指標 をつくり、世代間交流の効 果を第三者に理解してもら い、PRする	支援者は活動が保護者や教師、行政に理解、共感されるようにエビデンスを出し、PRする
	高齢者と子どもにおける相乗効果を明確にする
	子どもも大人も似ているところもある(リラックスする、集中するなど)ので、あまり分けて評価しない
	子どもを支援する高齢者たちに社会的な地位を与える
日本独自の世代間交流を世 界に発信する	日本特有の世代間交流を創造する

注:日本世代間交流協会:世代間交流ワークショップ2009年3月 15日の参加者6名による利 見をKI法を用いて分類した。 引用文献:亀井智子、<u>糸井和佳</u>、梶井文子、川上千春、長谷川真澄、杉本知子、都市部多世代交流型デイプログラム参加者の12ヶ月間の効果に関する縦断的検証:Mixed methodsによる高齢者の心の健康と世代間交流の変化に焦点をあてて.日本老年看護学会誌、査読有り、14(1),2009、印刷中.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

[学会発表](計5件)

Waka Itoi, Tomoko Kamei, Fumiko Kajii, Intergenerational Exchange and Staff Support in an Intergenerational Day Program for School Age Children and Older Adults in a Japanese Urban Community, The 4th International Conferences on Community Health Nursing Research, August 2009, Adelaide, South Australia.

糸井和佳、亀井智子、梶井文子、川上千春、都市部多世代交流型デイプログラムにおける世代間交流の構造と看護支援・プログラム開始から1年10ヶ月間の観察より・、日本地域看護学会第12回学術集会、2009年8月、0VTA(千葉県).

糸井和佳、亀井智子、梶井文子、川上千春、都市部多世代交流型デイプログラムの看護スタッフが認識している支援の内容-スタッフの語りと参加観察より・、日本老年看護学会第 13 回学術集会、2008年 11 月、石川県音楽堂.

糸井和佳、亀井智子、梶井文子、川上千春、都市部多世代交流型デイプログラムにおける世代間交流に対する高齢者の受け止め方、聖路加看護学会第13回学術集会、2008年9月、聖路加看護大学.

糸井和佳、亀井智子、梶井文子、川上千春、杉本知子、長谷川真澄、初期の多世代交流型デイプログラムの活動報告-初期の世代間交流の様子 - 、日本老年看護学会第12回学術集会、2007年11月、神戸国際会議場.

6.研究組織

(1)研究代表者

糸井 和佳 (ITOI WAKA)

聖路加看護大学・看護学部・助教

研究者番号:30453658

(2)研究分担者 該当なし

(3)連携研究者 該当なし